

詩

奨励賞

夏の色

小松市立高等学校二年

北村 柚稀

すだれがゆれる
のぞく世界は何色
広いそらの青
風できらめく青い草
元気な子供の小麦色
好きなあの子の髪の色
なつ

なつは見るものすべてあざやかに

めくるめくような色たちに
心おどらせ

夏色に染められた世界を
見ながら僕は夢に沈む

会いに来たよ

小松市立高等学校一年

中田 楓

じんわりと汗が出る暑い暑い夏
あなたはこんな暑い外で
ずっと待っていてくれるのだろう
本当は毎日行きたいけど
泣き顔なんて見せたくないから
私の話をただ聞いてほしい
それで私はあなたと会話できたと思える
ずっと私を見守ってください
私は毎年この日に来ます
あなたがねむる此処に。

甲子園にのせて

小松市立高等学校一年

寺道奈端菜

熱い地に足を踏みしめる球児
みんなが一番を目指し
戦ってきた

負けてしまい泣きくずれた姿
勝って仲間と喜び合う姿
その一瞬一瞬が一粒の汗のように
輝いている

私は応援する側だけど
一緒に緊張や感動を味わうことができる
その思い出は球児の投げるボールのように
一瞬で過ぎていくように感じる
その思い出を忘れないよう